

CentreCOM® 8216XL リリースノート


この度は、CentreCOM 8216XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1. ソフトウェアバージョン 2.0.0J

2. 機能追加された項目

本バージョンでは前バージョン(1.2.12J)より以下の項目が追加されました。

2.1 トランキンググループの複数設定

 「オペレーションマニュアル」2-59 ~ 2-61 ページ


ポートトランキング機能において、同時に2つのトランキンググループを設定することが可能になりました。

2.2 VLAN ID 設定値の拡大

VLAN IDの設定値は2 ~ 2,047でしたが、これを2 ~ 4,094としました。ただし、IGMPスヌーピング機能を使用している場合は、2 ~ 2,047 までとなります。

3. 本バージョンでの制限事項

3.1 RMON 機能について


 「オペレーションマニュアル」2-16 ~ 2-17 ページ

RMON alarm, event は、現在未サポートとなっています。あらかじめご了承ください。


3.2 スタティック MAC アドレステーブルについて

以下の機能は、現在未サポートとなっています。あらかじめご了承ください。


スタティック MAC アドレス表示(システム全体) 「All Static MAC Addresses」

 「オペレーションマニュアル」2-109 ページ


スタティック MAC アドレスの追加・削除 「Add MAC address/Delete MAC address」

 「オペレーションマニュアル」2-111 ~ 2-114 ページ


マルチキャストアドレスの追加・削除 「Add MAC address/Delete MAC address」

 「オペレーションマニュアル」2-116 ~ 2-119 ページ

スタティック MAC テーブルの消去 「Clear static MAC table」


 「オペレーションマニュアル」2-120 ページ

3.3 Xmodem ダウンロード機能について

 「オペレーションマニュアル」2-26 ~ 2-27 ページ

[XModem software update to this system] メニューを実行後、ソフトウェアのダウンロードをやむをえず中断する場合は、電源ケーブルを接続しなおしてください。

3.4 送信フレームの統計情報「Multicasts」について

 「オペレーションマニュアル」2-14 ~ 2-15 ページ

[Ethernet statistics] メニューの「Transmit Statistics Graph」画面 / 「Total Good Transmits」画面において、他のポートで受信したソースアドレス未学習のユニキャストパケットは、「Multicasts」としてカウント表示されます。

3.5 SNMP 機能について

[Administration] メニューの [Reset and restart the system] 実行時(ソフトウェアリセット時)に出力されるトラップは、coldStart です。

3.6 設定変更時のご注意


システムの設定変更(ミラーリング機能設定をのぞく)を行った後は、[Main Menu] -> [Administration] とすすみ、[Reset and restart the system] メニューを実行し、システムをリセットしてください。

3.7 スパニングツリー機能について

IGMPスヌーピングが動作している環境で、スパニングツリー機能を使用することはできません。IGMPスヌーピング機能とスパニングツリー機能は併用しないでください。


3.8 GBIC モジュール(1000BASE-X ポート)について

Half duplex 設定時のご注意

 「オペレーションマニュアル」2-7 ページ

本製品は、[Port status and configuration] メニュー内において、1000BASE-X ポートの通信モードを [Half duplex] に設定することが可能です。ただし、1000BASE-X ポートの場合、本製品出荷時点で他の検証機器がないため、本製品同士、および弊社 CentreCOM 9006SX/SC、AT-A15 との検証のみを実施しています。

1000BASE-X ポートのポートミラーリング機能について

 「オペレーションマニュアル」2-66 ~ 2-69 ページ

本製品のソフトウェア(プロトコルスタック部分)から送信されるパケット(BPDU、ARP reply、trap など)は、ミラーリングされません。

3.9 ポートセキュリティ機能について



「オペレーションマニュアル」2-48 ~ 2-53 ページ

本機能では、登録された MAC アドレスを持つ端末のパケットは、Security object port で指定されているすべてのポートで受信します。

3.10 Ping テストについて



「オペレーションマニュアル」2-29 ページ

Ping テストにおいて、対象となる機器が接続されているポートのケーブルを抜き差しした後、[Ping a remote system]を実行した場合、最長で約10分間通信ができなくなることがあります。

4. 注意事項

4.1 GBIC モジュール(1000BASE-X ポート)について

通信になんらかの問題が発生した場合は、光ファイバーケーブルの抜き差しを行うようにしてください。また、光ファイバーケーブルの抜き差しは、必ずTXとRXの両方を行ってください。

5. マニュアルの誤記訂正

5.1 ポートセキュリティ Limited モード設定について

Limited モードの MAC アドレス最大登録数を設定する [Config MAC address limit per port(MAC Address Limit)] オプションの説明に一部誤り(不足)がありました。以下のとおり訂正してお詫びいたします。

Config MAC address limit per port



「オペレーションマニュアル」2-50 ページ

Ⓔ デフォルトは 0 (ゼロ) で、Limited モード対象外のポートとなっています。

Ⓕ デフォルトは 0 (ゼロ) で、MAC アドレスの最大登録数は設定されません。

MAC Address Limit



「オペレーションマニュアル」2-52 ページ

Ⓔ 0 (ゼロ) に設定した場合は、Limited モードは無効となり、MAC アドレステーブルは通常の学習機能モードとなります。

Ⓕ 0 (ゼロ) に設定した場合は、Limited モードは無効となり、MAC アドレステーブルは通常の学習機能モードとなります。ただし、学習済みの MAC アドレスはエージング機能によって削除されません。

